

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



特選

令和五年九月度 入賞句一覧 投句数 五百三十五句

田中 青志 選

霧の中子を呼ぶ牛の声頻り

大垣市 宮上 美濃留

朝の牧場は霧が深い。いつしよに草を食んでいた子がいない。霧に紛れて離れ離れになり視
界の中にいない。それを感じ取った親牛。しきりに呼びかける声が響く。子牛はそんな親の心
配をよそに、親牛のところへ戻る気配はない。大丈夫だよお母さん。親の心子知らずは、人間
世界のことでだけではないようです。

引き出しに成績表とどんぐりと

大垣市 安田 むつこ

期末のこと、おそらく成績表を貰って帰っているはず。でも、その子がいらない。机を見た
ら、やはり通知表が入っていた。しかも団栗といっしょに。しようがない子、決して褒められ
るものではないと知っていたこと。屈託のない明るい子。いけないところはわかった。わかって
いる。褒めてやろう。おそらくあつけらかんと帰ってくるであろう。何もかもわかってい
る。子のことだから、今度こそはがんばろうね。わかった。

人生の末尾はどこぞ鰯雲

大垣市 北浦 典子

わからないから生きておれるという言い方もある。しかし、余命を知らされた人の話を聞く
とき、本人もさることながら、家族のことを考えると、わからない方が幸せというものであ
る。必ず末尾はあると知りながらである。癌に罹ったら、処置をせずそのまま余命を終えるな
どと話していたが、あつという間に切除されて生きていく。あのまま果てた方がよかつたので
はと、今でも横着な勿体ないことを考えることがある。何故生きるかを考え直そう。

秀逸

傾きてなほおさまらぬ西日かな

岐阜市 花川 和久

竹藪へ七夕笹を父の後

大垣市 井沢 美志津

花火果て重たき空の天守閣

養老郡養老町 佐藤 咲楽

片陰にダツシユの息を整える

東京都北区 菱沼 多美子

ひまわりは応援団のユニホーム

大垣市 米山 春江

マンションの五F西瓜の育ちをり

大垣市 宇佐美 昭子

縁側におはやうのこゑ茄子の籠

神奈川県川崎市 立野 音思

遺影まだ二十歳なりけり盆提灯

三重県四日市市 後藤 允孝

サンドレス妻の上腕頼もしき

香川県仲多度郡 佐藤 浩章

隣席は大口あけて泥鱸鍋

群馬県館林市 坂口 いちお

入選

ひまわりの大きな笑顔じつと見る

埼玉県所沢市

坂井 傑

長男はきちんと被る夏帽子

東京都世田谷区

関戸 信治

落ち蟬や手足を組んで天仰ぐ

愛知県額田郡

平松 京師

虫の声乱さぬように野を歩き

大垣市

後藤 喜美男

炎天下名水求め雀来る

大垣市

傍島 隆

財布の紐孫来てゆるむ夏休み

大垣市

傍島 豊子

涼風が項をなでる朝の路

大垣市

石垣 珠泉

盆提灯少し色褪せ火を灯す

大垣市

香田 末代

暑さ負け庭のあさがお地をはって

不破郡垂井町

矢部 順子

向日葵の押し寄せて来る程の数

大垣市

田中 雅子

青春をひもといてゐるソーダ水

大垣市

岡田 あや子

秋夕焼帰りゆく子の影長し

大垣市

白井 秀子

墓だけのふる里遠し盆の月

大垣市

小林 研

産土の稚児行列や虫時雨

大垣市

平野 順一

数知れぬ小さき幸せ遠花火

兵庫県加古川市

戸田 みつよ

蛸やクレヨン残し孫帰る

東京都新宿区

山崎 力

案山子らもノーネクタイが主流かな

三重県鈴鹿市

松井 政典

羅の風を着こなす裾さばき

三重県三重郡

水野 悦子

抽斗の隣寸探して火花かな

福岡県福岡市

大津 英世

朝顔の蔓あを空に溺れさう

岐阜市

堀江 美州

選者吟

埒あかぬいくさを止めよ秋の風

青志

一般の部

